



ひらく

学校を開き、生徒の未来を拓く

□ インターネットトラブルを起こさせないために

文部科学省の「GIGA スクール構想」により、新型コロナウイルス感染症等でやむを得なく登校できないお子様に対して、学びを止めないためのオンライン授業が進められるようになりました。本校のオンライン授業の進め方につきましては、本日配布したお手紙の通りです。今一度ご確認ください。

さて、26日に実施した「情報モラル講座」をはじめ、これまでも学校では様々な機会を捉えて「情報教育」を行ってきましたが、「GIGA スクール構想」の実施に伴いさらに繰り返し取り組む必要があると考えています。

というのも、書き込みやメールでの誹謗中傷やいじめといったネットによるトラブルが頻発しているからです。右は代表的なトラブルで、本校でも残念ながら似たような事案が起っています。

こうしたトラブルは、「家庭生活への影響」や「生徒の心身の健康への影響」を引き起こしたり、「様々な犯罪」に巻き込まれたりするなどの恐れがあります。トラブルが発生した場合、学校ができる対応は次のことに限られます。

- ・被害生徒に寄り添った心のケア
- ・保護者の許可を得て、全校生徒に事例をもとにした情報教育の実施
- 一方、学校ができないこと、簡単に申し上げると、家庭（保護者）でご対応いただくことは次のことなどです。
- ・ネットトラブルの加害者の特定
- ・ネット上にあげられたり、流出したりした画像等の削除や回収
- ・トラブルの解決

※右事例の「学校で教科書がなくなった」ことについては、学校が対応することです

想像される通りトラブルの解決には多大な時間と労力がかかります。また「デジタルタトゥー」という言葉がある通り、一度拡散された書き込みや個人情報は、完全に削除することが不可能な場合もあります。ですから、家庭（保護者）と学校が役割を自覚し、次の未然防止に努めることが必要です。

- 1 生徒がネット上の情報を見分け、ネット上での自分の行動や責任について判断できる力を持つこと
- 2 家庭及び学校でネットトラブルについて指導し、生徒とよくコミュニケーションをとるとともに、しっかり監督すること

「GIGA スクール構想」により、情報端末を取り扱う頻度が今後さらに高まることを想像し、今回は確認の意味も含め「学校だより ひらく」で話題とさせていただきます。

■ GIGA スクール構想：生徒向けの一人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を全国の学校現場で持続的に実現させる構想



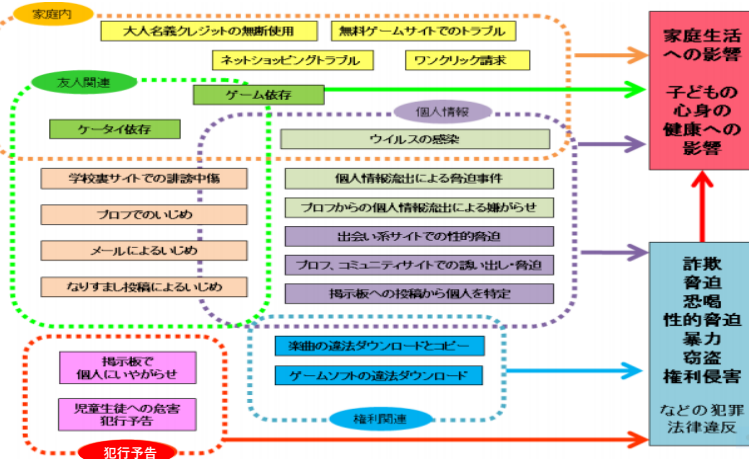
中2（男子）のA君は、学校の先輩から変なポーズを取るように強要されました。恥ずかしいから何度も断ったのですが、断り切れずポーズをとったところ、写真に撮られてクラスメイトや先輩にメールで送られてしまいました。写真付きメールを受け取った数名は、A君の知らない人にも転送していました。

その後、A君のところにはクラスメイトや先輩から「そんな人と思わなかった」などと書かれたメールが、ひっきりなしに送られるようになり、全く知らない人からも同じようなメールが届くようになりました。A君はメールの着信音が鳴っても怖くてメールを読むことができなくなりました。



学校内である生徒の教科書がなくなる事件が起きました。中3（女子）のAさんは、クラスメイトと犯人捜しをしていました。Aさんは、Bさんを犯人と思い込み、学校のブログにBさんになりすまして「私がやった」と語った内容の犯行声明文を書き込みました。

その結果、Bさんは一方的に犯人にまつりあげられてしまいました。しかし、実際にはBさんは犯人ではありませんでした。Bさんはクラスメイトを信用できなくなってしまい、誰とも会話をしなくなりました。



「子どもを取り巻くインターネットの現状に関する調査研究」より